平成30年度　第1回アートを活かした障がい者の就労支援事業企画部会

議事概要

○日時：平成31年３月15日（金）　14時～15時20分

○場所：プリムローズ大阪４階「寿」

○出席委員　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(五十音順・敬称略)

今中 博之　　 　社会福祉法人　素王会　理事長

川井田 祥子　　鳥取大学　地域学部　教授

坂本 ヒロ子　　 社会福祉法人　大阪手をつなぐ育成会　理事長

鈴木 京子　　　 ビッグ・アイ共働機構　アーツエグゼクティブプロデューサー

福島 治　　　　　福島デザイン

藤原 明　　　　　りそな総合研究所株式会社　リーナルビジネス部長

山口 孝　　　　　ギャラリーヤマグチ　クンストバウ

○委員　　◆事務局

議事１　今年度の取組みの実績について

議題２　これまでの成果と今後の方向性について

資　 料：

　資料２　大阪府公募展・企画展等について

　資料３　「大阪府障がい者アート作品販売等支援事業」(capacious事業)について

　資料４　大阪府における障がい者アート施策の今後の方向等について

　資料５　障害者による文化芸術活動の推進に関する法律　概要

結　　　 果：

資料２、３に基づき、今年度の取組実績ついて報告・了承された。

資料４に基づき、大阪府における障がい者アート施策の今後の方向等について、事務局案を説明し、了承された。

資料５に基づき、本部会の改編等について現時点の方向性案を説明し、了承された。

主な意見等：

○資料４の作品販売等の支援のこれまでの取組みに、「府施策として実施」とあるが、将来的な展望はあるか。

◆今後も、カペイシャス事業は、大阪府の委託事業として継続していく方向。

○資料２の企画展「about me」の開催概要の書き方に関し、「芸術性の高い美術作品を」とあるが、この書き方では、企画展「about me」の趣旨からずれるのではないか。

◆「about me」自体は、作品および作家さんの魅力を発信していくもの。大阪府としての事業目的も、障がい者文化芸術を通じて、より幅広く、より深い障がい者理解につなげていくこと。ご意見を踏まえて、「作品やその作家の魅力を発信し・・・」といった表現とする。

○カペイシャスの売り上げについて、４年間を通して伸びているのは非常に評価できる。確かに、金額としては高くはないが、障がいのある方のアート作品販売支援は、最初の3年間が非常に苦しく、結果が出しにくいものであり、そんな状況の中で、１年目から３０点も販売につながっており、素晴らしいと思う。これまでの実績を踏まえて、引き続き、粘り続けていくことが重要。大阪や東京のホテル型展覧会等をメインとして粘り強く継続して頂くと、今後、売り上げも伸びていくと思う。

○カペイシャス事業を実施している事業者の方々は、これまでの4年間を踏まえて、この事業について、率直にどのような感想や思いを持っているのか、可能な範囲で教えていただきたい。

◆カペイシャス事業の担当者は、事業を実施していく中で、例えば、ビジネスライクに進めていくことと、ご本人や周りの方々の気持ちに寄り添うことと、いずれを優先すべきかなど、常に悩みながら真摯に取り組んでくれている。また、そのような悩みについて、アトリエインカーブへ訪問の際も率直に相談し、その悩んでいるということ自体を評価されたについて、喜んでおられたと受け止めている。

○障がいのある子どもを持つ親として、(カペイシャス担当者のように、障がいがある作家への支援のあり方について)悩み、葛藤してくれているのは、非常にうれしく思う。

○他府県で、カペイシャスのような取組みは実施されているのか。先進的施策としてもっとＰＲしてはどうか。

◆現時点では、自治体で実施しているところはないと思う。

○経済産業省が「アートと経済の関係性」について、ヒアリングに来ているが、そのような場でカペイシャス事業について、情報提供できれば、PRになると思うが、今後、そのような場でカペイシャスについて同省へ情報提供しても構わないか。

◆ぜひ、お願いいたします。

○カペイシャスで作品を購入された方の出身は把握しているのか。

◆展覧会場に来られる方々は、近隣府県の方が多いかもしれないが、全国からも来ていただいたり、購入していただいたりしていると聞いている。

○「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」をきっかけに、府庁として福祉分野だけでなく、文化分野なども連携協力していくべきである。また、福祉分野での取組みについて、府内の文化施設にも情報提供していっていただきたい。

議題３　その他

特になし。